

# シンポジウム

## ゲノム編集の農業応用を考える

2012年 CRISPR-Cas9 というゲノム編集技術が発表になり、生物の遺伝子を、外来遺伝子を組み込まず狙い通りに壊す、それも同時に複数の遺伝子破壊が可能となり、様々な分野で応用が急速に進んでいます。今回、食用の作物や家畜の育種を目的としたゲノム編集について考えます。

農作物や家畜などの品種改良として腐りにくいトマト、養殖しやすいおとなしいマグロ、筋肉量が2倍の豚、角を作らない乳牛、伝染病に強い豚、などが開発されています。

地球上に生物が発生して以来、人間は一部の動植物を共存・共生を重んじながら時間をかけて育種し、農業を行ってきました。ゲノム編集の登場はそれらの動植物を人間の功利のために瞬く間に変貌させる力があります。どこまで改変して良いのでしょうか。また、私たちの食生活に今後どのような恩恵あるいはリスクがあるのでしょうか。ゲノム編集の農業応用の動向を知り、今後どのように受け止めたらいいのかを講師にお話しいただき、その上で、私たち市民はこの技術に対してどう受け入れ、あるいは立ち向かうべきかを考えてみたいと思います。

政府は今後、ゲノム編集技術を成長戦略の重要な柱と捉え、農業政策として起用する可能性があります。消費者、生産者、研究者の垣根を越えて皆さんで考えてみましょう。

\*\*\*\*\*

### 記

- 日時 11月22日(水) 13時30分～16時30分 開場 13時より
- テーマ ゲノム編集の農業応用を考える
- 総合司会 島菌 進さん(上智大学大学院実践宗教学研究科教授)
- 講師 石浦章一さん(分子生物学者 元東京大学院総合文化研究科教授)  
ゲノム編集技術が作物、畜産、魚をどう変えるか  
井上 駿さん(元農林水産省 研究所 研究員)  
科学・技術の不全を農から問う
- 鼎談 農業におけるゲノム編集技術を考える  
安田節子さん(食政策センター ビジョン21代表)、石浦章一さん、井上 駿さん  
進行: 島菌 進さん
- 場所 せたがや がやがや館 3F 交流室 (〒154-0001 東京都世田谷区池尻 2-3-11)  
アクセス 東急田園都市線「池尻大橋」駅から徒歩7分



資料代 1000円  
主催 ゲノム問題検討会議  
問い合わせ 神野玲子 TEL090-2669-0413 E-mail

